

# 京都一派へ 一問一答

- 1 作家名
- 2 出身地
- 3 生年
- 4 現在
- 5 将来の夢
- a 焼物をするきっかけ
- b 大切にしている事
- c 伝統とは？

1 青柳有美

2 京都

3 1984年

4 自宅にて

5 海外での個展

a 昔から物を作る事と絵を描く事が好きで、何も無い状態から、自分の頭の中にある物を、作れる陶器に興味を持ちました。

b 古臭くなりすぎず、斬新になりすぎず、上手く間をとる事を大切にしています。

c 伝統とは、今の世の中に合わせて変化させるものだと思います。

1 伊藤南山

2 京都

3 1959年

4 平安陶花園にて作陶中

5 枝魯枝魯ハワイ店を軌道に乗せる

a 陶芸家の父に憧れて。

b 作品も自分も謙虚であること。

c 革新の連続。

1 かとうたかお

2 京都

3 1074年

4 清水焼団地にて作陶中

5

a 家が窯元なので自然と

b ミステリー性

c ただ受け継ぐだけでなく、昇華させること

1 川寄貴生

2 京都

3 1983年

4 叔父「川寄和楽」の元作陶中

5 独り立ち

a 物を作るのが楽しくて好きだったから。

b 楽しむこと。

c 基礎。

1 清水志郎

2 京都

3 1979年

4 五条坂で作陶中

5 夢がないこと

a 生まれた時(生まれる前?)

b みえないもの

c 過去

1 津田友子

2 京都

3 1975年

4 京都自宅兼工房にて

5

a 転機は21歳、一生涯かけて仕事を楽しむことを考え直す。自分の成果が形にそして目に見える仕事を選択。年中空調管理されたビルの生活より天候・季節・花・自然を感じて生きていきたいと思ったこと。

b 現代の生活空間が時代によって変化すること、生活習慣もかわっていく。すると、今まで必要性の高かった伝統工芸は生活の中から薄れなくなっていくものも少なくない。私達の世代が、伝統工芸を粹だと思っって貰える物づくりをしていかなければならないと思っています。

c 仕事、遊び、人生自分が先ず楽しむこと経験して感じて消化してそれを形にする。

1 橋本大輔

2 京都

3 1972年

4 父橋本城岳ノ窯にて

5 心から納得出来る作品と出会う事

a 自分の代わりがいくらでもいる仕事ではなく自分しか出来ない仕事があったらと思ったから。

b 自分の作ったものが本当に良いものか、常に疑問に思うこと。

c 先人から受け継いだものを単に次世代へ受け渡すだけではなく、如何に自分の中で昇華させられるか。